

2021年度（公財）日本体操協会政策方針

スローガン

「順応力と適応力」

（はじめに）

昨年のスローガンは「再生&チャレンジ」でした。本来であれば東京オリンピック・パラリンピックが開催され、体操の各競技ともに大活躍し、メダルラッシュで過去最高の成績を収めて、さらなる飛躍を目指して最良のスタートを切っていたはずでした。しかし、実際は、2月中旬から世界各地に広がりを見せた新型コロナウイルス感染症の猛威に襲われ、3月に東京オリンピックの1年延期がIOCから発表されました。その後、感染症対策として各国がこれに打ち勝つために様々な対策、予防を講じている最中です。まだまだ出口が見えない状況が続いております。命と健康と生活を守るため、一刻も早くワクチンの開発が軌道にのり全世界に供給され、以前に近い状況に戻ることを切に願います。

この状況から今年のスローガンは「順応力と適応力」と致しました。

「まだまだ続くこの状況下、環境や境遇の変化に順応し、その状況に応じた行動を取り適応していくこと。それぞれ新しい環境に早く慣れて、その中で最善の方策を導き行動し、環境に打ち勝って行く力をつけて目標達成を果たしたいと存じます。

コロナ禍の続く中、昨年11月に、国際体操連盟（FIG）主催の Friendship and Solidarity Competition と銘打った体操の国際大会を関係各所の協力により開催できたことは、オリンピック開催を問われる時期に、大きな希望を持つことが出来、勇気付けられました。また開催が危ぶまれていた体操、新体操、トランポリンの全日本選手権大会もコロナ対策を講じながら皆様方の多大なる協力により、開催出来たことは、このコロナ禍での選手強化並び体操選手に希望を与えられたと思います。このコロナ禍でスポーツへのあり方を問われることもありますが、我々スポーツ界の一員として、夢と希望を持って、この環境に立ち向かっていくしかありません。

今年7月には延期された東京オリンピックがあります。また、10月には、体操と新体操の世界選手権大会が同時期に北九州市で開催します。同時期開催、同都市開催は初となります。11月には国際体操連盟の役員改選選挙もあります。我々は足踏みすることなく進んで行かなければなりません。成功に向けて全力でサポートしたいと存じます。

最後にコロナ禍での活動が続きますが、オリンピックはもちろん、その後も環境に順応し、状況に適応した対策と行動を取り未来につなげるようにしていきたいと思っております。

日本体操協会のスローガンは 「順応力と適応力」 で進んで参ります！

(2020年の成績と反省)

男子体操においては、昨年3月中旬まで開催されたワールドカップ種目別シリーズでの成績から、種目別での東京オリンピック出場枠獲得が目の前まで来ています。ワールドカップ個人総合とアジア選手権は延期となり、団体出場国に加えられる個人枠獲得は先延ばしとなりましたが、その枠が獲得できれば、熾烈な代表争いが繰り広げることになりました。中でも昨年12月の全日本選手権では、世界に通用するベテランの力、若手の成長がみられ、それらを再結集してレベルの高い戦いを期待します。

女子体操においては、男子同様にワールドカップ種目別シリーズでの成績から、種目別での東京オリンピックの出場枠獲得圏内の成績を収めました。また国内の大会では、昨年12月の全日本選手権で、若手の活躍もありました。練習環境確保が難しい中ですが、全体の底上げを期待します。

新体操においては、コロナ禍で集団練習が出来なくなり、合宿も解散し、個々での調整となりましたが、練習再開後は、基礎的な部分の確認等が数多くできたと思います。また実践から遠ざかっていることから、全日本選手権時に演技披露の場を設けて、実践不足を補う機会を設けました。新たなチームとして思い切った満足いく素晴らしい演技を再び期待します。

男子トランポリンは、昨年3月中旬まで開催されたワールドカップシリーズの成績から、オリンピック出場枠を1枠追加できる圏内の成績を収めました。しかしながら、コロナ禍で練習場確保が困難となる事態に直面し、昨年11月の全日本選手権では、練習不足が露呈した結果となりました。一方、若手の成長に目を見張るものがあり、国内の力を結集して適応力を発揮し再度、優勝争いが出来るレベルでオリンピック本番を迎える努力を期待します。

女子トランポリンは、男子同様にオリンピック出場枠を1枠追加できる圏内の成績を収め、史上初となる女子2名でのオリンピック出場が見えてきました。ただコロナ禍で練習場の確保に各選手が悩まされた時期があり、試合感覚を取り戻す必要がありました。ようやく開催された昨年11月の全日本選手権では、現時点でのレベルと状態の確認はできたと思います。この確認できた点を反省し、今できる様々な強化を試行錯誤して取り組み、さらに精進して女子全体のレベル向上を期待します。

仕切り直しになりましたが、環境に順応し、適応力を発揮し、皆様の期待に応えて参ります。

ー東京オリンピックでの目標ー

東京オリンピックの目標は次のとおりです。

男子体操	団体総合金メダル及び個人種目金メダル獲得
女子体操	団体総合、個人総合、種目別にてメダル1つ以上獲得
新体操	団体総合メダル獲得、個人総合入賞
男子トランポリン	個人メダル獲得
女子トランポリン	個人メダル獲得

ー世界選手権での目標ー

各種別世界選手権の目標は次のとおりです。

男子体操	複数の金メダル獲得
女子体操	個人総合、種目別にてメダル2つ以上獲得
新体操	団体種目別メダル獲得、個人総合トップ10入り
男子トランポリン	個人、団体、シンクロナイズド競技でのメダル獲得
女子トランポリン	個人、団体、シンクロナイズド競技でのメダル獲得

好成績を上げるようレベルアップし、適応力を十分に発揮して全力で戦って参ります。

(一般体操)

2020年、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、3密を避けるなどの「新しい生活様式」が求められ、スポーツ界においても対応が急務になりました。不要不急の外出自粛やテレワークの推進などで在宅が多くなるなど、国民の運動不足による体力低下や健康二次被害が懸念されています。

そのような中、多くの運動・スポーツ関係者がインターネット上に健康のための体操動画を配信し、「誰でも、いつでも、どこでも」行うことができ、健康の保持・増進を最重要目標とする一般体操の担う役割と価値が再認識されたと言ってよいでしょう。

一般体操委員会においても新しい体操プログラム「The Taiso」を創作し、2019年オーストリアで開催された世界体操祭での発表を皮切りに、様々なイベントで実施し、2020年4月に正式発表を行いました。メイン・アンバサダーとして田中理恵氏（本会理事）、小林よしひさ氏を起用し、今後、本会主催イベントで実施していく予定です。

日本体操祭の実施方法は、従来の会場発表だけではなく動画映像発表を新たに加えるとともに、テレビ局と提携して全国より多くの参加者を呼び込む試みを企画しました。

2021年は一般体操の普及のために、指導者の養成にも注力をしていきます。従来から実施している一般体操指導員養成の充実と、新たに企画した高齢者体操指導員養成プログラムもスタ

ートさせる計画です。さらに、学校教員を対象とした講習会も企画をしていきます。

コロナ禍での制約は多々ありますが、新たな試みを取り入れながら一般体操の普及発展を進めてまいります。

(アクロ体操)

2020年11月にポルトガル主催のオンライン・ハンドスタンド世界大会(7名出場)国別総合(21ヵ国)で金・銀メダル。個人でも金、銀、銅を獲得する好成績を収めました。今後もこうした大会が開催される可能性を視野に入れ、参加しやすい種目別大会での参加を目指し、選手の増加に繋がります。また、演技会による広報活動を継続し、地域委員会やコーチ育成委員会など全国の指導者との連携を図ります。また、「ストレッチ体操の質と量」主題の講習会も開催地で好評を得ました。これからの体操界の発展に寄与するものと確信し、継続して参ります。

選手発掘に関しては、他競技団体との連携を深めながら進める計画です。現状は新型コロナウイルス拡大により本大会の開催及び演技会・国際大会の参加が制限されていますが、「選手育成と国内普及」を第一目標に掲げ、普及・発展への積極的活動を行います。

指導者講習や体操・新体操・トランポリンを志す子どもやアクロ体操へ興味を持つ子どもたちへの実技指導でアクロ体操受講認定証を発行し、アクロ体操登録として委員会で集約し組織拡大に繋がります。また、「日本体操祭」での動画発表、会場発表によるテレビ配信(メディア露出)により普及、広報活動を実施して参ります。

2021年度は上記の案件を踏まえ、アクロ体操委員会の活動拡大に努力致します。

(男子新体操)

男子新体操は2024年第78回国民スポーツ大会(佐賀県)より正式種目として導入が決定しておりますが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で各種大会、講習会が中止となりました。2021年は将来的に全県普及を目指すための新たな一歩として、大学生を中心とした「若手指導者育成講習会」の開催を計画しております。これまで、指導者の多くは、「教員」の立場で普及に関わることが主流でしたが、今後の新たな取り組みとして、教員に限定せず幅広い職種につきながらも普及活動の最前線に立つことのできる若手指導者育成を目指します。

第二に、昨年度に引き続き、指導者の審判員資格取得に力を入れ、ルールのより深い理解を現場と共有し発展を目指してまいります。

以上の二点を中心とし、日本が世界に誇れるスポーツとしての質上げを目指すことを政策方針として掲げます。

(パルクール)

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大会が軒並み中止、延期となりました。新しい生活様式が求められる中、FIGが世界でもいち早くオンラインでの大会を開催したことを受け、国内の取り組みとして2021年1月8日から2月27日まで開催する「第1回JGAパ

ルクル・オンライン・コンペティション」を成功させたいと考えています。2021年度には第2回大会の開催を目指し、同じく第2回大会となる「パルクール日本選手権」(期日・会場未定)を、「よりアーバンスポーツらしさ」をテーマとしての大会開催を目指します。また、延期となっている「第1回 FIG 世界パルクール選手権」は、会期及び開催地の決定を含め、2021年の開催が実現できるよう、活動を推進していきます。

昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、デモンストレーション及び一般の方々がパルクールを体験する機会を増やし、更なる普及を目指していきます。また、国内普及(審判・指導)等も整え、実施展開に向けたガイドラインの作成を目指します。そしてパルクールのファンや愛好者を増やし、更なる普及を目指していきます。

今後共、国内パルクールの競技・普及に全力で取り組んで参ります。

(組織ガバナンス・コンプライアンス・指導における暴力、セクハラへの対策強化)

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、体操だけでなく、スポーツ界全体、さらには人類の生活様式さえ、変えざるを得ないこととなりました。全てにおいて計画通り進んだことはないかと存じます。本会では2020年2月に危機管理対策室を設置し、秒速の如く変化する状況に対応してまいりました。

一方、そのような中でもスポーツ団体の組織改革は継続して求められ、昨年度から取り組んでいる「スポーツ団体ガバナンスコード」の本会の発表を2021年度に行います。この改革についても、以前から受けている提言事項やガバナンス、コンプライアンスの指導から早期に対応したいと思っております。

本会では、昨年度同様、継続して「指導における暴力、パワハラ、セクハラ撲滅運動」に取り組みます。コンプライアンス委員会の指示による地域での早期対処する部署の設置と指導現場での適切な指導教育が大変重要となります。未然に防ぐ通報システム作りを地域から徹底を再度お願い申し上げます。

コロナ禍で、地方団体としても多くのことに配慮しながらの取り組みが続くと存じますが、本会と関係各所連携協力し、厳しい姿勢をもって取り組み続けて参りましょう。

(地域委員会)

本会は、これまで全国各地で献身的に尽力されている指導者をはじめ、学校関係者、各地域の行政、体操愛好者に支えられて発展してきましたが、昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、東京オリンピックをはじめとする多くの大会が延期・中止となりました。各大会開催に向けて準備をされてきた多くの関係者には、その対応に追われ、これまでにない苦労があったものと思います。そして何よりも、その大会を目標にしてきた選手・指導者にとっては、その状況を受け入れることが難しかったことと察しています。そのような中、地域委員会として何とか活路を見出すことを検討し、開催地の体操関係者の協力のもと徹底した感染予防を施しながら中止となった高校選抜・インターハイの代替大会として2020年10月に全日本高等学校体操

競技選抜鯖江大会を無事に開催し、第15回全国ブロック選抜U-12体操競技選手権大会の開催に結びつけることが出来ました。2021年度には多くの全国大会が地方で計画されていますが、コロナ禍で開催した大会の知見を地域委員会として提供し、協力していきます。

(国際関連)

国際委員会の2021年度方針として、FIG役員選挙で渡辺会長の再選、並びに技術委員の確保を図ることを目標といたします。

その目標達成に関連し、第一に、FIG、アジア体操連合(AGU)における政策決定過程に関与し、国際的な折衝において活躍できる理事、国際連携・国際貢献を實踐できる技術委員を確保するため、下記JOC事業を通じて国際人材の育成を図り選挙対策を構築して参ります。

・「スポーツ国際展開基盤形成事業」

(スポーツ国際政策推進基盤の形成プログラム開発)

・「人材育成プログラムの開発」

国際人養成アカデミー(JOC International Sports Leader Academy / JISLA)

第二に、本会独自の人材育成プログラムを策定し、必要な資格を取得し継続的に役員育成を図って参ります。

第三に、現在も実施している国際交流支援活動、需要に応じたコーチの海外派遣事業やオリンピックソリダリティー2020東京人物交流支援事業、Sports For Tomorrow事業の受け入れを継続し実施して参ります。

また、国際大会の国内開催として2021年10月に、史上初の体操・新体操の世界選手権の同都市、同時期開催を福岡県北九州市で開催いたします。オリンピック後のレガシー、そして新たな体操の展開を継続していくための大変価値ある大会と認識し、体操の全国発展を継続して参ります。

(普及改革プロジェクト)

本会登録人口を増やす「体操の普及」は本会定款の示す通り、本会設置の目的です。しかし、コロナ禍での社会の変化、少子高齢化など、これまでの取り組みを継続するだけでは乗り切れない事態に来ており、外部の専門家などを交えて「体操普及」を検討・実現するプロジェクトが2020年7月に設置されました。2020年は課題とアイデアを抽出する期間として「体操の魅力を具現化／すべてのスポーツの基礎である体操の浸透化／財政体制(スポンサー頼み)の改善／体操を通じた日本スポーツ界の発展／体操愛好者の増加」を目的として検討を重ねて参りました。2021年はいよいよ実現化に向けての議論を進めます。種別、年齢、性別、地域を超えた日本体操界一丸となった取り組みが必要ですのでさらなる協力をお願いします。

(むすび)

全世界が未曾有の新型コロナウイルス感染拡大により、生活が苦しめらてる状況に陥っております。誰もが経験していない、また未知のウイルスとの共存が続きます。今回のスローガン通り、この環境に早く順応し、可能限りの素早く良策を講じる適応力が試されます。暗くなる気持ちを、前に向かえるための方策を考え、進んで行きたいと存じます。一人、一人の行動が延期となった東京オリンピック開催にも影響するものと思います。

東京オリンピックでの選手の活躍と成功は我々の願いですが、それ以上に個々の行動も非常に大切になります。自らの身体を守り、家族、選手、関係者、そして世界中の人々も守るために力を結集し、この環境を乗り越える道筋を作り、新様式での体操ニッポンを築き上げていきたいと存じます。

以上、2021年度公益財団法人日本体操協会政策方針を発表いたしました。皆さん、苦境に負けず力を合わせて一緒に頑張りましょう。